塩竈市文化財調査報告書第11集

浦戸諸島発掘調査報告書Ⅱ

― 令和元年度・2年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書 ―

令和3年1月

塩竈市教育委員会

浦戸諸島発掘調査報告書Ⅱ

－令和元年度・２年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書－

序　文

浦戸諸島は、松島湾に浮かぶ大小の島々からなり、特別名勝松島の景観を構成する重要な要素となっています。有人島である桂島、野々島、寒風沢島、朴島の４島は、漁業を主要産業とし、令和２年７月末現在で178戸320名が暮らしています。

平成23年３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波により、塩竈市も甚大な被害を受けました。浦戸諸島には、最大で推定８ｍの津波が押し寄せ、全島の居住区域が浸水、約540戸あった家屋のうち327戸が全壊し、半壊も73戸に及び、３名が犠牲になられました。

本市では、同年12月に「塩竈市震災復興計画」を策定し、「長い間住み慣れた土地で、安心した生活をいつまでも送れるように」を基本理念とし、復旧・復興事業を推進してまいりました。国・県の全面的な支援のもと、漁港施設や防潮堤の整備、宅地の嵩上げ事業等、インフラの復旧は最終段階を迎えています。

生活基盤の復旧が進む一方、人口は減少の一途をたどっており、定住人口・交流人口の増加に向けた一層の取り組みが求められています。

浦戸諸島は、桂島貝塚・船入島貝塚に代表される縄文時代の遺跡をはじめとする文化財が点在し、数多くの伝承・民話が伝わる長い歴史を持つ島々です。文化財は、祖先たちが生きてきた証としてかけがえのないものであり、地域の宝、地域の誇りです。

本報告書は、野々島における震災復興事業に伴い、宮城県教育庁文化財課の協力のもとで実施した発掘調査の成果を刊行するものです。文化財をとおして地元の歴史を知っていただくことが地域復興の一助となるものと信じ、今後も調査研究ならびに普及啓発に力を入れていく所存ですので、本書をご一読いただき、ぜひ忌憚のないご指導ご助言を賜れましたら幸甚です。

最後になりますが、発掘調査にあたり、全面的なご協力をいただきました宮城県教育庁文化財課をはじめ関係機関の皆さま、埋蔵文化財発掘調査にご理解をいただきました野々島地区の方々に、厚く御礼を申し上げます。

令和３年１月

塩竈市教育委員会

教育長　　吉木　修

例　　言

1. 本書は、塩竈市浦戸野々島における東日本大震災で被災した海岸施設の復旧工事に伴い、塩竈市教育委員会が宮城県教育庁文化財課の協力のもとに実施した発掘調査（確認調査）報告書である。
2. 発掘調査に関わる機材等は調査原因となった事業の事業者が負担し、報告書刊行に係る諸経費は塩竈市の一般会計予算より支出した。
3. 本書における平面図は、平成23年（2011）東北地方太平洋沖地震後の世界測地系国家座標第X系で作成した。
4. 第2・3・4・7・9・11図には、平成23年（2011）測量の「1/2500仙塩都市計画図（国際航業会社調整）」の地形図を縮小して使用した。
5. 写真1は、国土地理院の地図・空中写真閲覧サービスよりダウンロードした航空写真を用いた。
6. 本書における土色の記載は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄、1973、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
7. 画像は、特に断りのない限り塩竈市教育委員会および宮城県教育庁文化財課が撮影したものである。
8. 本書刊行に係る図面・図版作成については、令和2年（2020）2月5日から3月15日まで、宮城県教育庁文化財課職員の指導・助言を得ながら、文化財課分室で行った。
9. 発掘調査の記録と出土遺物は、塩竈市教育委員会が保管している。

調　査　要　項

遺　跡　名：**野々島貝塚**（ののしま）（宮城県遺跡地名表登載番号：11015　遺跡記号：SN）
　　：**平和田囲遺跡**（へいわだかこい）（宮城県遺跡地名表登載番号：11025　遺跡記号：SH）

所　在　地：宮城県塩竈市浦戸野々島字平和田

調査原因：浦戸地区海岸災害復旧事業（東日本大震災復興関連事業）

調査主体：塩竈市教育委員会

調査担当：塩竈市教育委員会　白谷明彦　阿部光浩　大場明　大山貴之　中川真哉　石川桃子　今野歩美
　　宮城県教育委員会　生田和宏　古田和誠　廣谷和也　黒田智章　梅川隆寛　佐久間光平

調査期間：野々島貝塚：確認調査　①2019年7月29日～2019年7月31日
　　②2019年10月7日～2019年10月8日
　　隣接地：確認調査　2020年5月18日
　　平和田囲遺跡：確認調査　2019年10月28日～2019年10月29日

調査面積：野々島貝塚：92㎡　隣接地：21㎡　　平和田囲遺跡：25㎡

調査協力：宮城県教育委員会　宮城県仙台土木事務所

目　　次

序文
例言・調査要項
目次

第Ⅰ章　東日本大震災の復興事業に伴う『浦戸諸島』発掘調査の概要 …… 1

第Ⅱ章　野々島地区の発掘調査に至る経緯 …… 2

第Ⅲ章　遺跡の概要 …… 3
（1）　地理的環境 …… 3
（2）　歴史的環境 …… 3

第Ⅳ章　発掘調査 …… 4
（1）　A区：野々島貝塚 …… 4
（2）　B区：野々島貝塚・平和田囲遺跡の隣接地 …… 11
（3）　C区：平和田囲遺跡 …… 14
（4）　D区：ごしょぼら貝塚（工事立会） …… 17

第Ⅴ章　まとめ …… 18

引用文献
報告書抄録

第Ⅰ章　東日本大震災の復興事業に伴う『浦戸諸島』発掘調査の概要

宮城県塩竈市は仙台市の北東に位置し、東側の松島湾内には『浦戸諸島』と呼ばれる島嶼群がある。これらの島々は、有人島の桂島、野々島、寒風沢島、朴島、230余りの無人島のほか、暗礁に近いものも含めると300近くになる（**図1**）。七ヶ浜半島（七ヶ浜町）から、塩竈市の浦戸諸島、東松島市の宮戸島へと連なる多島海の景観は、国内有数の景勝地となっている（特別名勝「松島」）。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による大津波は、外洋に面した松島湾内の島々にも甚大な被害をもたらし、海岸部の居住地とともに、漁業施設や防潮堤などの港湾施設の多くが損壊した。震災後間もなく復旧・復興に向けた各種事業が開始されたが、被害が広範囲に及び、各地の被害規模が大きかったことから、事業は多年に渡り継続して行われることになった。

これらの復興事業に伴い、浦戸諸島内の遺跡の発掘調査も数多く実施されることになり、平成27年度には、浦戸諸島の桂島・寒風沢島・朴島における復興5事業8遺跡について確認調査を実施した（塩竈市教育委員会 2016）。令和元年度～2年度には、野々島において確認調査を実施した（**表1**）

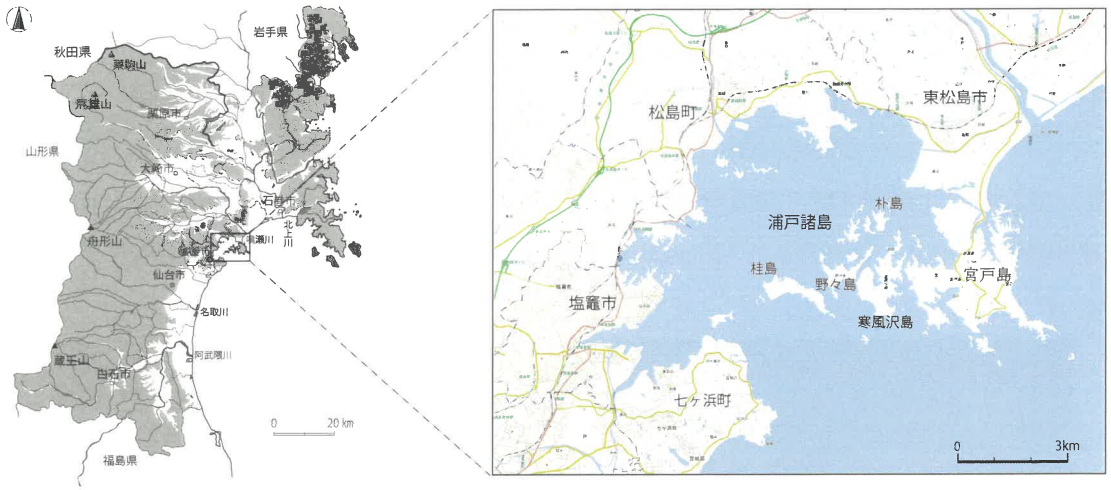


図1 塩釜市『浦戸諸島』

表1『浦戸諸島』における復興事業関連発掘調査

No.	年度	遺跡名	調査	調査面積	調査期間	調査原因	事業主体	報告書
1	2015 (H27)	桂島貝塚	①確認 ②確認	① 113㎡ ② 24㎡	① H27.8.3・4 ② H27.8.17～19	①②漁業集落防災機能強化事業	①②塩釜市	塩釜市教育委員会 2016
2		寒風沢本屋敷貝塚	①確認	① 1,200㎡ ② 65㎡	① H27.5.11～21 ② H27.9.24・25	①農地海岸災害復旧事業 ②防潮堤工事（防潮堤復旧）	①宮城県 仙台地方振興事務所 ②宮城県 仙台塩釜港湾事務所	
3		平戸貝塚	①確認 ②確認					
4		平戸B貝塚	①確認					
5		平戸C貝塚	①確認					
6		前浜囲貝塚隣接地	①確認 ②確認					
7		浦戸貝塚	②確認					
8		朴島北貝塚	確認	1次：15㎡ 2次：192㎡	1次：H26.3.13 2次：H27.6・9	災害復旧事業 （防潮堤復旧・二重防潮堤建設）	宮城県仙台土木事務所	
9	2019 (R 1)	野々島貝塚	確認	92㎡	R1.7.29～31 R1.10.7・8	海岸災害復旧事業	宮城県仙台土木事務所	本報告書
10		平和田囲遺跡	確認	25㎡	R1.10.28・29			
11	2020 (R 2)	野々島貝塚・平和田囲遺跡隣接地	確認	21㎡	R2.5.18			

第Ⅱ章　野々島地区の発掘調査に至る経緯

浦戸諸島の野々島（**図２**）においても、東日本大震災によって海岸施設が大きな被害を受け、海岸堤防や護岸の復旧工事が各所で計画された。これらのうち、島北西部海岸の４か所（A区、B区、C区、D区）の復旧工事予定地が周知の遺跡（野々島貝塚〔縄文・古代〕・平和田囲遺跡〔古代〕・ごしょぼら貝塚〔古代〕）に近接していることから、平成30年５月以降、遺跡の取扱いについて関係機関よる事前協議が行われた（**写真1**）。令和元年６月には改めて現地確認を行い、災害復旧工事計画（掘削地点、範囲、深度など）を踏まえて、野々島貝塚・平和田囲貝塚については確認調査、ごしょぼら貝塚については工事立会を行うことになった。

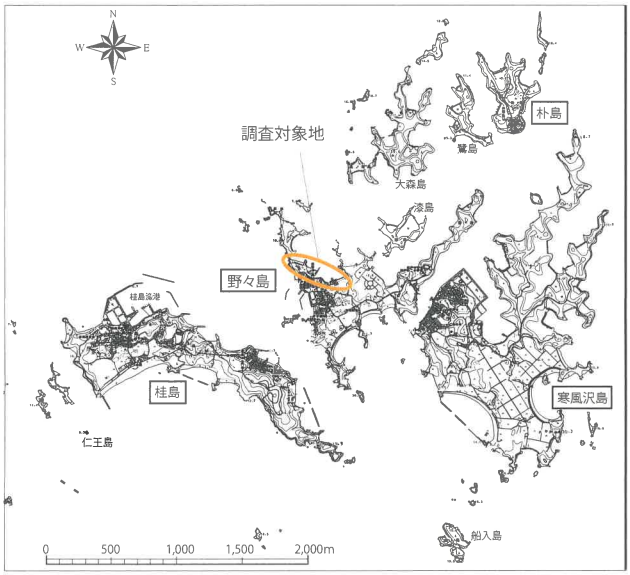


図２　浦戸諸島と野々島

これらの地点における確認調査は、復旧工事との兼ね合いから３回に分けて行い、令和元年７月には野々島貝塚の北東側区域（A区東）、同年10月には野々島貝塚の北西側区域（A区西）および平和田囲遺跡（C区）、令和２年５月には両遺跡に隣接するB区を対象として確認調査を実施することになった。

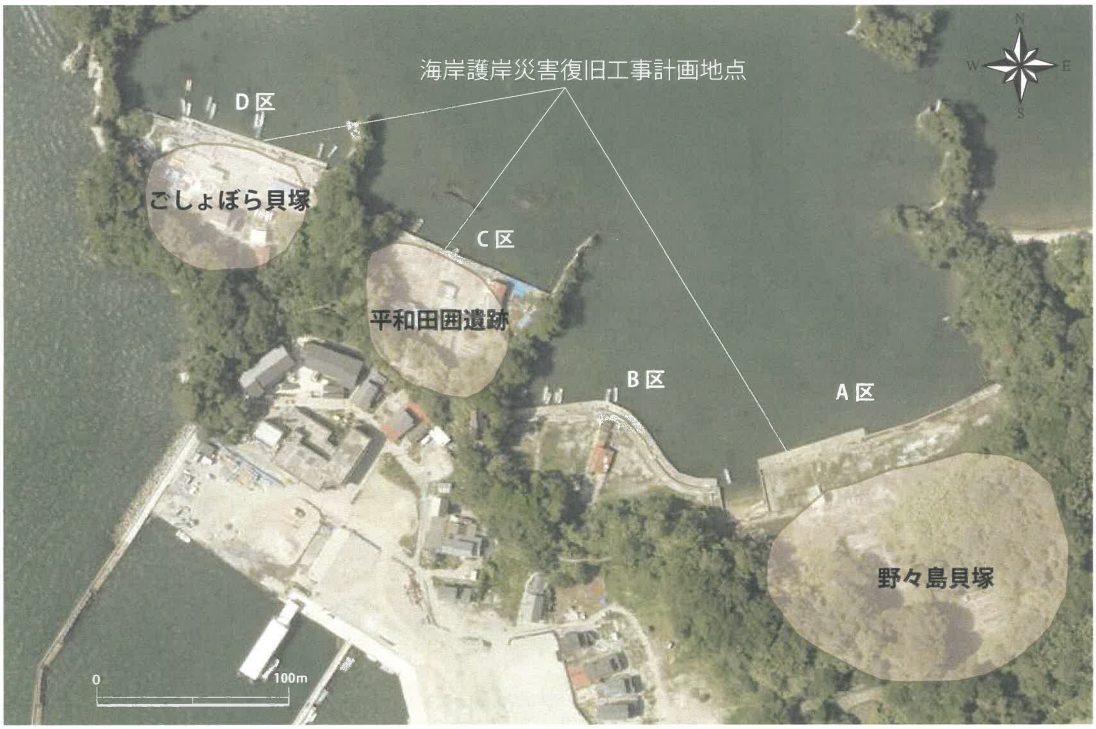


写真１　野々島地区海岸災害復旧工事計画地と遺跡の位置

国土地理院の平成27年撮影
CTO20154－C12－32を使用

第Ⅲ章　遺跡の概要

（1）地理的環境

野々島貝塚や平和田囲遺跡が所在する野々島は、浦戸諸島のほぼ中央に位置し、寒風沢島、桂島に次いで３番目に大きい島である（**図２**）。面積は約 0.56㎢。西の桂島に面する沿岸部に集落が広がる。今回の調査対象となる３遺跡は、この集落から尾根を越えて北側の小さな入り江に所在する（**図３**）。

野々島貝塚は、現在、畑地や荒蕪地となっており、護岸がある海岸部よりも 1.5 mほど高い位置にある。縄文時代早期および奈良・平安時代の遺跡であり、畑地では今でも土器や貝殻の散布が認められる。

平和田囲遺跡は、この野々島貝塚がある入り江とは小丘陵を挟んだ西側の入り江にある。遺跡は現在の海岸の護岸よりやや奥に入った標高3.5 mほどの畑地に広がる。畑地では土器の散布が見られる。

（2）歴史的環境

松島湾と人々との関わりは深く、その開始は湾が形成された縄文時代に遡る。沿岸や島嶼にはこの時代の人々の生活の痕跡を示す貝塚が数多く分布する。代表的な貝塚には、拠点的な大遺跡である史跡里浜貝塚（東松島市宮戸島）や史跡西の浜貝塚（松島町）などがある。これらの貝塚は長期間にわたる縄文人と自然との関わりを知るうえで重要な遺跡となっている。浦戸諸島でも、船入島貝塚（早

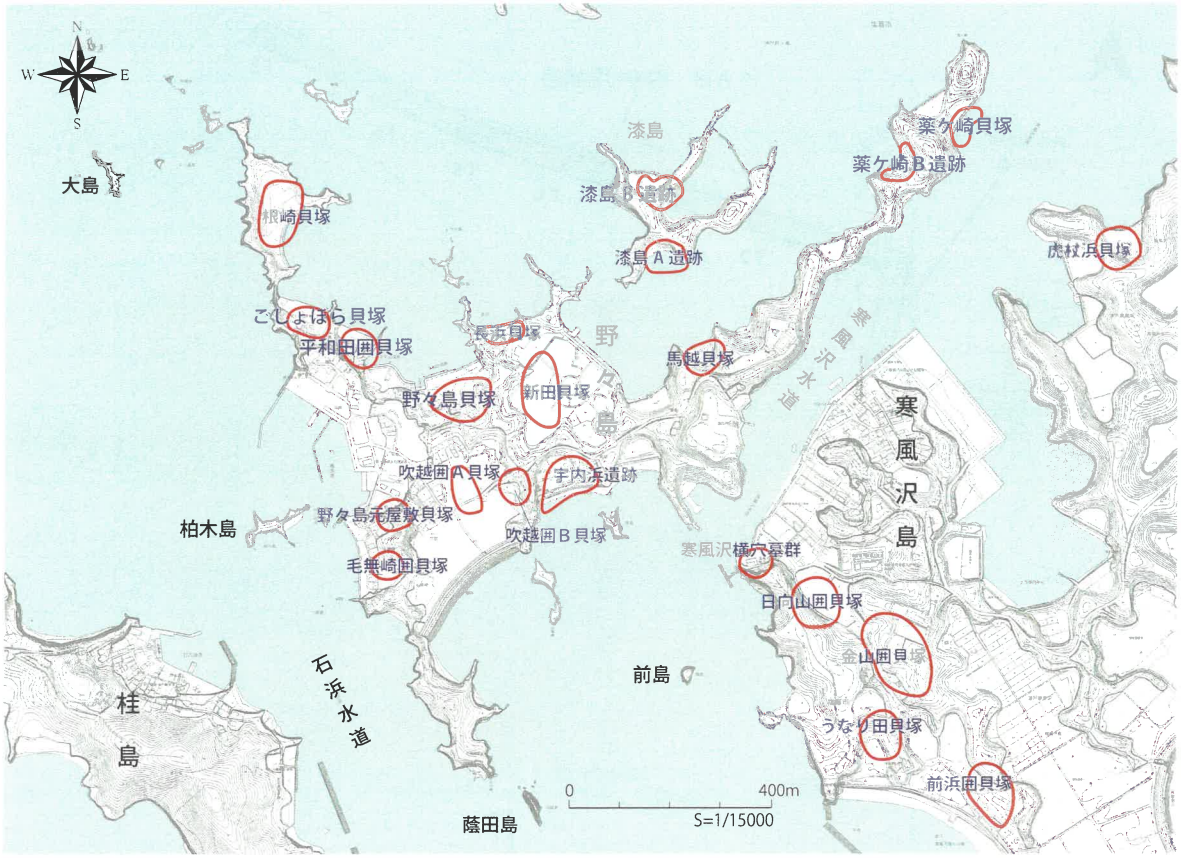


図３ 野々島の遺跡

期～中期)、野々島貝塚（早期)、桂島貝塚（前・中期)、浦戸貝塚（中期)、薬ヶ崎貝塚（晩期）など数多く知られている。また、製塩土器が確認されている遺跡も多く、桂島では梅ヶ浜貝塚など２遺跡、野々島では平和田囲遺跡・薬ヶ崎貝塚など 11 遺跡（**図３**)、寒風沢島では寒風沢本屋敷貝塚など 14 遺跡、朴島では朴島宅地遺跡など５遺跡があり、古代になると松島湾のほとんどの入り江で土器による製塩が行われている。

第Ⅳ章　発掘調査（工事立会含む）

（1）A区：野々島貝塚

1）調査方法と経過

確認調査の対象地は、野々島貝塚の北側に隣接する海側の地点で、入り江の海岸の既存護岸に沿った幅４m、長さ約 150 mの範囲である（**図 4、写真図版 1―1・2**)。新たな復旧護岸は、損壊した既存護岸より２mほど海側に設置され、陸地側ではコンクリート舗装及び小規模な排水路などが設置される計画で、現陸地面側での掘削の最大深度は 70c mほどの予定である。

既存護岸内側のコンクリート舗装や排水路の設置が計画されている範囲を対象として、２×３m～２×４mのトレンチを８か所（T1 ～ T8)、３× 4m ～ 2.5 × 6.0 mのトレンチを４か所（T9 ～

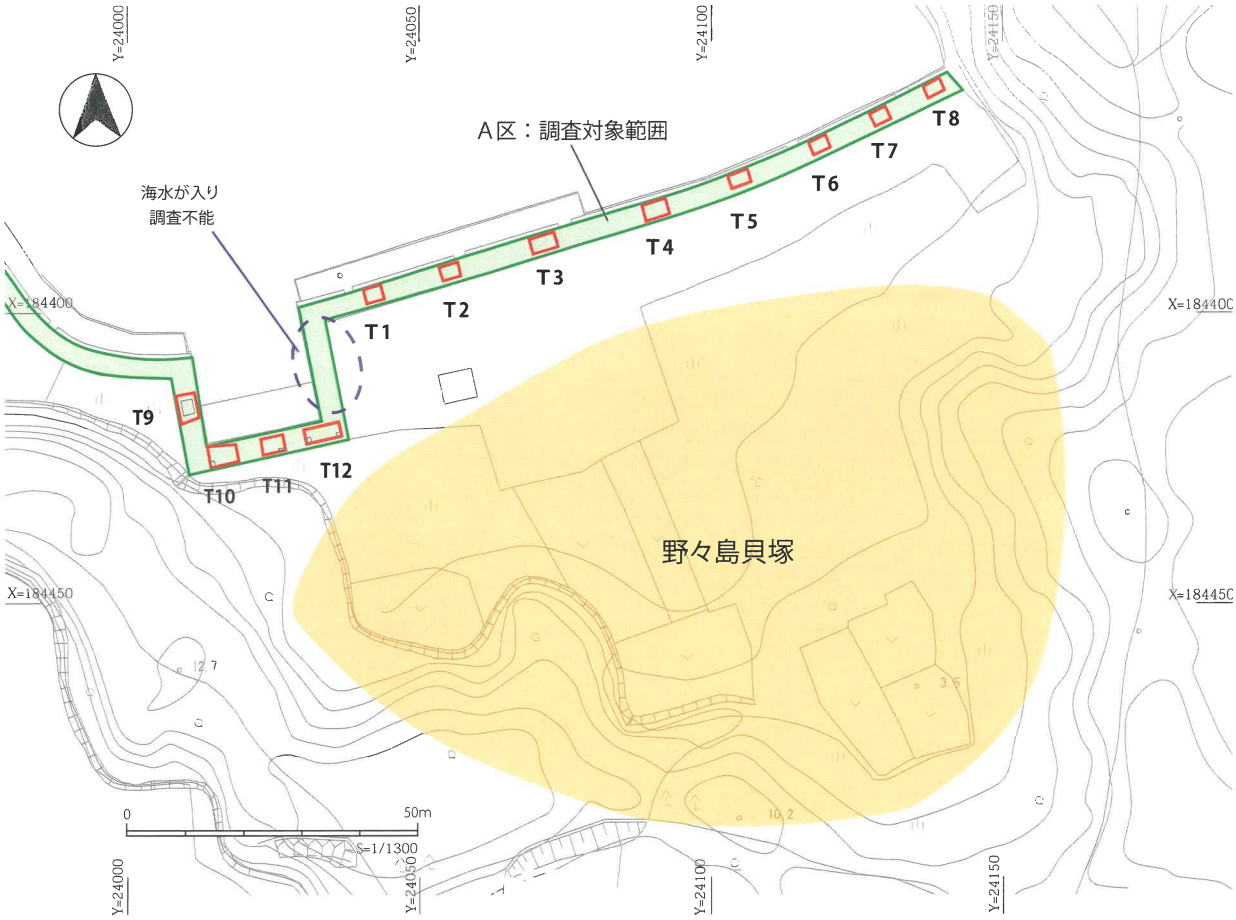


図４ 確認調査トレンチの位置

写真２　調査状況（T1）東から

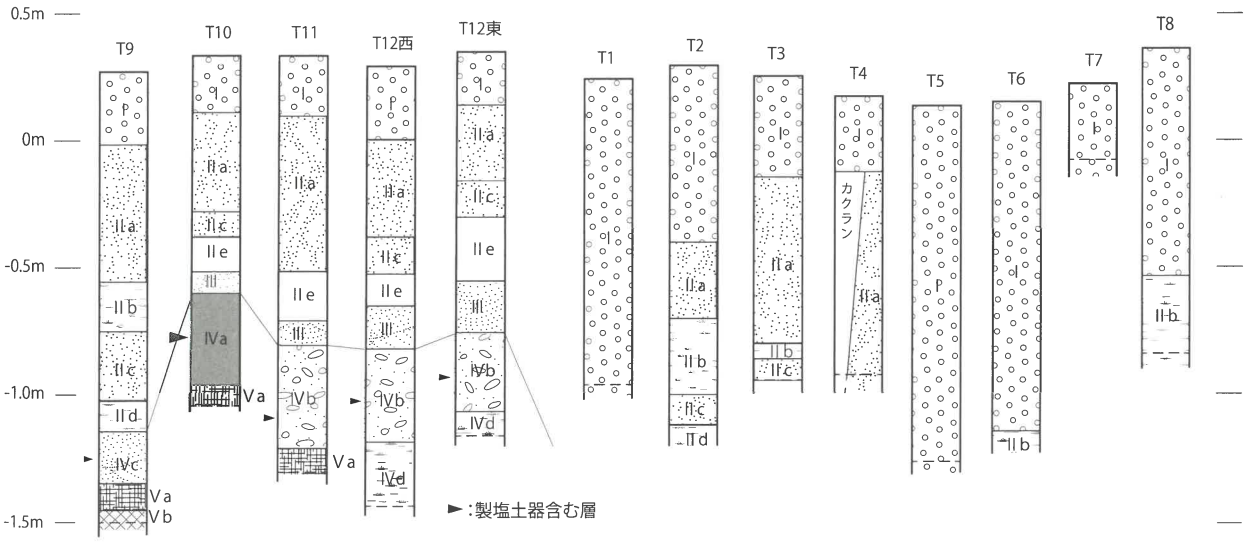
写真３ T9～T12 調査地点　北西から

12）設定した（**図４**）。

確認調査は既存物の撤去等の都合から２度に分け、令和元年７月 29 日～ 31 日（T1 ～ T8）および同年 10 月７・８日（T9 ～ T12）に実施した。調査に際しては、バックホー（0.25㎥）を使用して掘削を行ったが（**写真２・３**）、調査地は既存護岸のすぐ脇のため湧水が激しく、盛土や砂地のため崩落の危険も高いことから、いずれのトレンチも深さ 1.2 ～ 1.6 mほどに止めた（**写真図版２・３**）。バックホーによる掘削後には調査区断面の写真を撮影するとともに堆積層の柱状図を作成し（**図５**）、すぐに埋め戻しを行った。

２）調査状況および結果

各トレンチの堆積状況および調査結果は**図５・表２**に示したとおりである。堆積層は大きく５層に区分される。Ⅰ層（表土）は、以前の既存護岸工事に伴うとみられる盛土（砂礫など）で、T1 ～



Ⅰ：盛土（砕石、砂礫）
Ⅱa：灰色（7.5Y4/1）細砂～中砂。アサリなど含む。プラスチックなど含む。
Ⅱb：暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘土。砂層をラミナ状に含む。アサリなど含む。スクモ層。
Ⅱc：オリーブ黒色（7.5Y3/1）中砂。アサリなど（破砕）含む。
Ⅱd：暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘土。砂層をラミナ状に含む。アサリなど含む。スクモ層。
Ⅱe：オリーブ黒色（7.5Y3/1）粗砂。
Ⅲ：褐色細砂。製塩土器細片をまばらに含む。
Ⅳa：オリーブ褐色粘土。製塩土器を多く含む。炭化物少量含む。
　　砂層、焼土（?）をラミナ状に含む。
Ⅳb：オリーブ褐色砂礫。製塩土器を少量含む。
Ⅳc：オリーブ褐色細砂。製塩土器片をごく少量含む。
Ⅳd：暗オリーブ褐色粘土。スクモ層。製塩土器を含まない。
Ⅴa：地山。黄褐色粘土～粘土質シルト。岩盤由来の細礫を含む。
Ⅴb：岩盤。

図５ 各トレンチの層序柱状図

8にかけては0.6～1.2 m以上あった。このⅠ層（盛土）下では、Ⅱ層：砂・スクモが互層をなす層が0.5～0.6 m以上堆積しているが、T3ではこの砂層やスクモ層にプラスチックなど含まれており、現代の堆積層であることが分かった。より西側のT9～12では、このⅡ層下にⅢ層：褐色細砂が堆積し、その下位にはⅣ層：オリーブ褐色粘土～砂層（地表下約1.0～1.3 m）が認められた。Ⅳ層はⅣa～Ⅳdに細分される。T9・T10では、このⅣ層下はⅤ層：黄褐色粘土～粘土質シルト（岩盤由来の細礫含む）層や岩盤となる。

遺構はいずれのトレンチでも確認されなかった。遺物は、西側のT9～12のⅣ層から古代の土師器坏（**図6－1**）、須恵器坏・甕（**図6－2・3**）などの小片とともに、製塩土器（**図6－4～18**）の破片が出土した。特にT10のⅣa層にはやや多く包含されていた。T 1～T 8では遺物は出土していない。

表2 各調査トレンチの概要

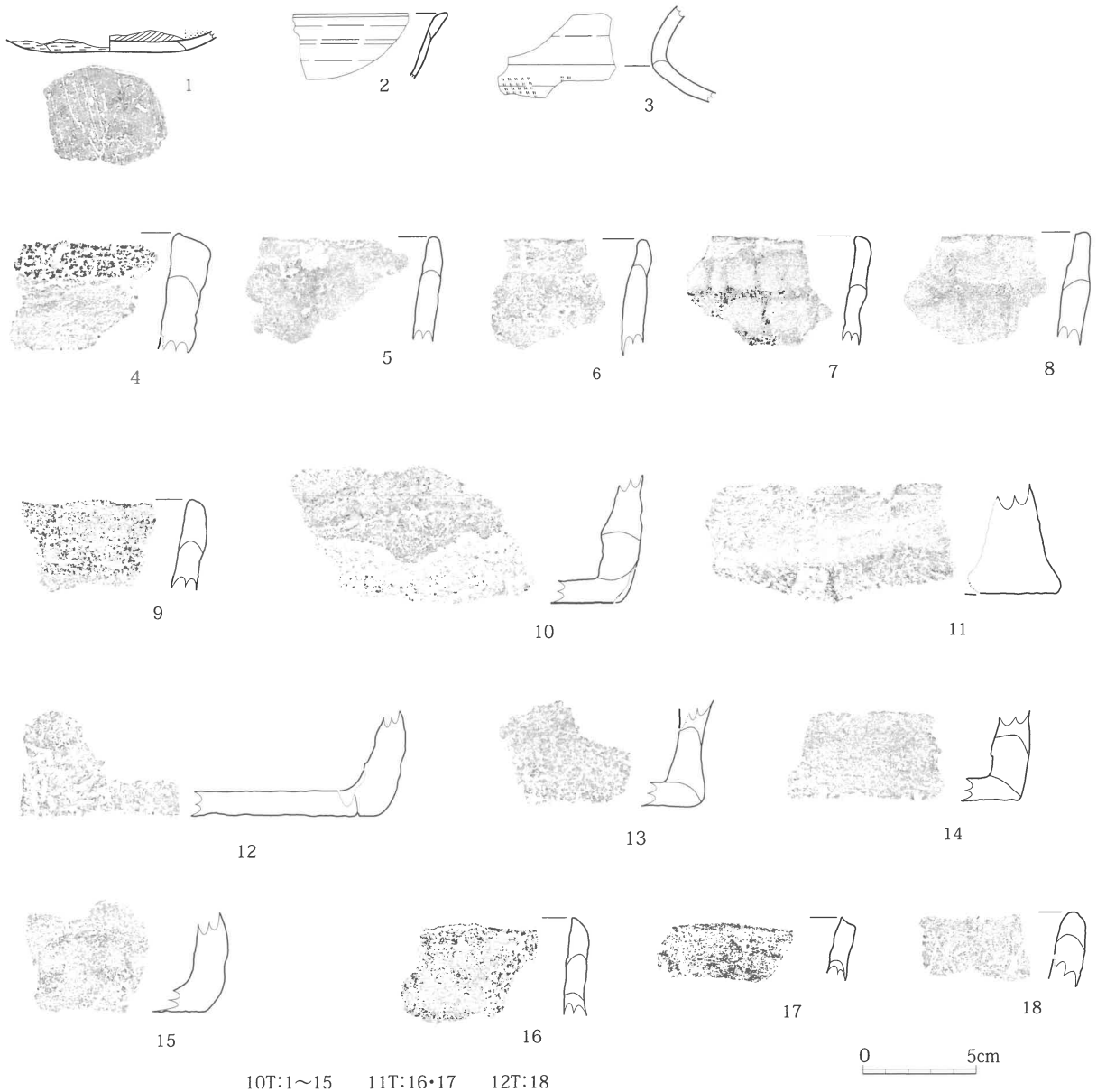
トレンチ	調査面積（幅×長m）	調査深度（m）	堆積層の状況	遺構	遺物	備　考
T1	2×3	1.2	盛土（砂礫など）1.2m 以上。	なし	なし	
T2	2×3	1.4	盛土（砂礫など）0.7m の下に、アサリなど含む砂・スクモ層が 0.7m 以上。	なし	なし	砂・スクモ層は現代か。
T3	2×4	1.2	盛土（砂礫など）0.4m の下に、アサリなど含む砂・スクモ（現代）が 0.8m 以上。	なし	なし	砂・スクモ層からはプラスチックなど。
T4	2×3	1.1	盛土（砂礫など）・カクラン層 0.6m の下に、アサリなど含む砂・スクモ層が 0.8m 以上。	なし	なし	砂・スクモ層は現代か。
T5	2×3	1.4	盛土（砂礫など）1.4m 以上。	なし	なし	
T6	2×3	1.3	盛土（砂礫など）1.3m の下に、アサリなど含む砂・スクモ層。	なし	なし	砂・スクモ層は現代か。
T7	2×3	0.3	盛土（砂礫）0.3 mのみ掘削。	なし	なし	湧水が激しく、掘削中止
T8	2×3	1.2	盛土（砂礫など）0.9m の下に、アサリなど含む砂・スクモ層。	なし	なし	砂・スクモ層は現代か。
T9	3×4	1.5	1.3 m下に製塩土器細片をごくわずかに含む細砂層。	なし	製塩土器	約 1.6 m下に岩盤。
T10	2.5×4	1.2	1 m下に製塩土器を多く含むオリーブ褐色粘土層。	なし	製塩土器	遺物は流れ込みか。
T11	2×4	1.5	1.2～1.3 m下に製塩土器を少量含む砂礫層。	なし	製塩土器	遺物は流れ込みか。
T12	2×6	1.6	1.1～1.2 m下に製塩土器を少量含む砂礫層。	なし	製塩土器	遺物は流れ込みか。

3）小括

① 西側のT9～T12では現地表面から1.0～1.3 m下のⅣ層（オリーブ褐色粘土・砂など）から古代の製塩土器等が出土した。T1～T8にかけては遺物は出土しなかった。

② 野々島貝塚の西端部に近接するT10～T12付近では、遺跡本体からの流れ込みによる遺物が散布するものとみられる。一方、T1～T 8は、遺跡が広がる背後の地点よりさらに低く、縄文時代や古代には海面下であった可能性が高く、遺跡はこのエリアまでは広がっていないとみられる。

③ 新設護岸は既存護岸よりも海側（現海面）に設置される計画で、陸側のコンクリート舗装や排水路に伴う掘削も最深0.7 mほどであることから、発掘調査は今回の確認調査のみに止めることにした。



10T:1～15　11T:16・17　12T:18

No.	器種	トレンチ・層	残存部位	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録
1	土師器　坏	T10　Ⅳa	底部	―	(6.0)	―	外面：(体下) ヘラクズリ　内面：ヘラミガキ→黒色処理　底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ	3－1	1
2	須恵器　坏	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：ロクロナデ　内面：ロクロナデ	3－2	2
3	須恵器　甕	T10　Ⅳa	頸部	―	―	―	外面：(体) 平行タタキ→ロクロナデ　(頸) ロクロナデ　ロクロナデ	3－3	3
4	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ　(剥落あり)	3－4	4
5	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：オサエ→ナデ (剥落あり)　内面：ナデ	3－5	5
6	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ	3－6	6
7	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：オサエ→ナデ　内面：ナデ	3－7	7
8	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：オサエ→ナデ　内面：ナデ	3－8	8
9	製塩土器	T10　Ⅳa	口縁部	―	―	―	外面：(剥落)　内面：ナデ	3－9	9
10	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：外面：ナデ (剥落あり)　内面：ナデ (剥落あり)	3－10	10
11	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：ナデ　内面：(剥落)	3－11	11
12	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：ナデ (植物圧痕あり)　内面：ナデ (剥落あり)	3－12	12
13	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ (剥落あり)	3－13	13
14	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ	3－14	14
15	製塩土器	T10　Ⅳa	底部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ (剥落あり)	3－15	15
16	製塩土器	T11　Ⅳb	口縁部	―	―	―	外面：ナデ (剥落あり)　内面：ナデ	3－16	16
17	製塩土器	T11　Ⅳb	口縁部	―	―	―	外面：ナデ　内面：ナデ (剥落あり)	3－17	17
18	製塩土器	T12　Ⅳb	口縁部	―	―	―	外面：ナデ (植物圧痕あり)　内面：ナデ (剥落あり)	3－18	18

図6　出土遺物

1. T1~T8　調査前の状況（東から）

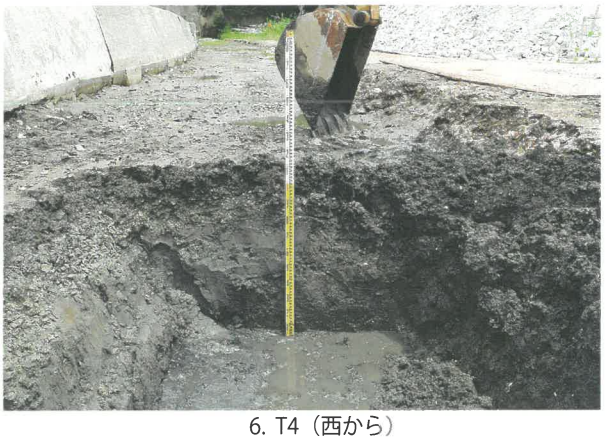
2. T9~T12　調査前の状況（北西から）

写真図版 1　発掘調査前の状況

3. T1（西から）

4. T2（西から）

5. T3（東から）



6. T4（西から）

7. T5（西から）

8. T6（西から）

9. T7 調査風景（西から）

10. T8（西から）

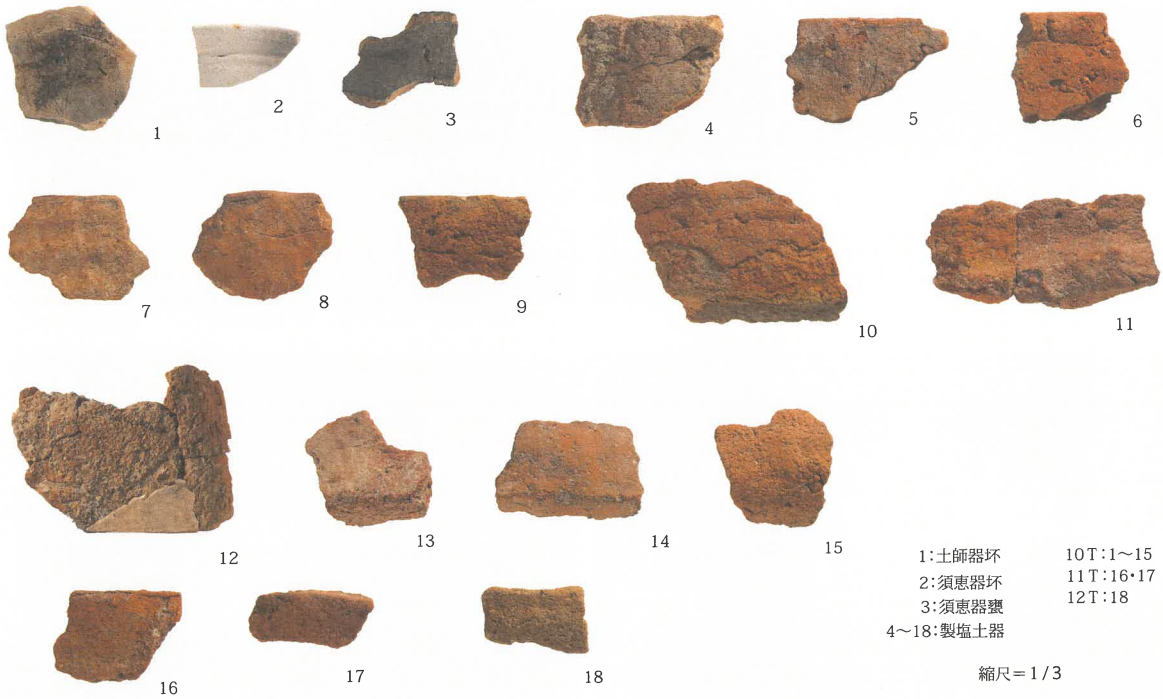
写真図版 2　各トレンチの調査状況 (1)

11.T9（北西から）

12.T10 Ⅲ層上面（北東から）

13.T11（北から）

14.T12 南東深掘部（北から）



写真図版 3　各トレンチの調査状況 (2)・出土遺物

（3）B区：野々島貝塚・平和田囲遺跡の隣接地

1）調査方法と経過

B区は、野々島貝塚と平和田囲遺跡に挟まれた区域で、調査対象範囲は既存護岸に沿った幅4m、長さ約120mの範囲である（**図7・写真図版4－1**）。工事内容はA区と同様で、現陸地面側での掘削の最大深度は70cmほどの予定である。

写真4　調査対象地（西から）

野々島貝塚西端部の丘陵に隣接するT10～T12で遺物が出土していることを踏まえ、野々島貝塚に近い地点に2か所（T①、T②）、工区の中間部に1か所（T③）トレンチを設定した。また、B区と平和田囲遺跡は熊野神社がある小丘陵で隔てられているが、遺跡の広がりを確認するため、丘陵に近い地点に1か所（T④）トレンチを設定した（**図7**）。

調査に際してはバックホー（0.25㎥）を使用し、T①、T②、T④は約2.0mの深さまで掘削した。T③は遺跡から離れた地点であることから、掘削は約1.5mほどの深さに止めた（**写真図版4**）。

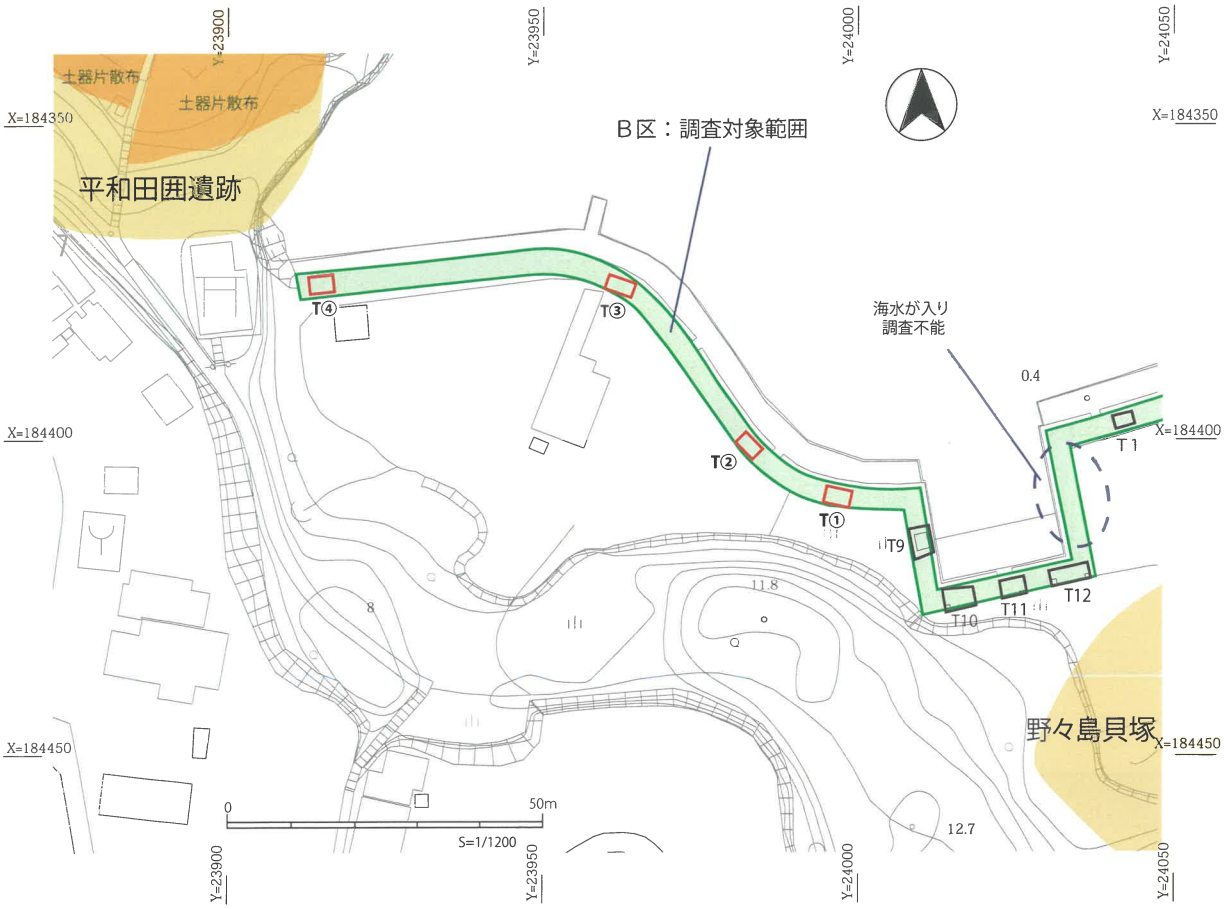


図7　確認調査トレンチの位置

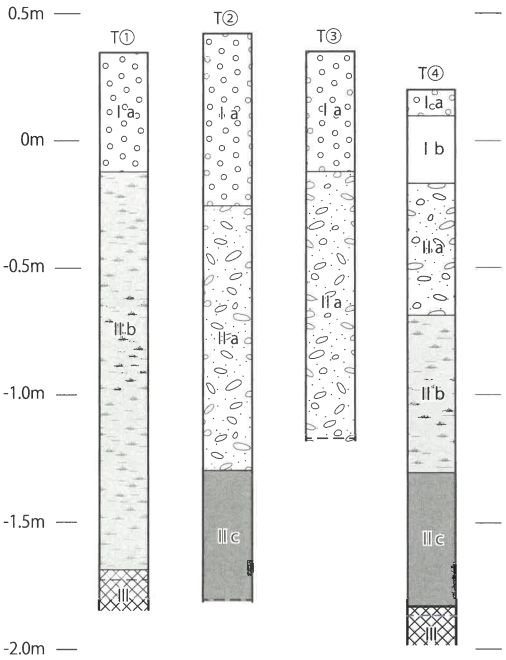
Ｂ区の確認調査は令和２年５月 18 日に実施した。バックホーによる掘削後には調査区断面の写真を撮影するとともに、堆積層の柱状図を作成し（**図８**）、すぐに埋め戻しを行った。

２）調査状況および結果

各トレンチの堆積状況および調査結果は**図８・表３**に示したとおりである。いずれのトレンチも、表土（Ⅰ層）下に近現代の盛土（Ⅱ層）が現地表から 1.3 ～ 2.0 ｍまで堆積していた。Ｔ①・Ｔ④ではⅡ層直下に岩盤を確認したが、Ｔ②・Ｔ③では地山や岩盤には達しなかった。調査の結果、各トレンチとも遺構・遺物は検出されなかった。

３）小括

① 調査結果から、復旧護岸の計画地は近現代以降に盛土造成されており、縄文時代・古代には海面下であった可能性が高い。遺構・遺物も検出されなかったことから、遺跡範囲はこの地点までは及んでいないと考えられる。



Ⅰa：砕石
Ⅰb：表土（黒褐色土、砕石含む。）
Ⅱa：黄色砂質シルトと黒色シルト互層
Ⅱb：貝層
Ⅱc：黒色粘土
Ⅲ　：岩盤

図８　各トレンチの層序柱状図

写真５　調査状況（Ｔ④、東から）

表３　各調査トレンチの概要

トレンチ	調査面積（幅×長m）	調査深度（m）	堆積層の状況	遺構	遺物	備考
Ｔ①	２×2.5	2.0	Ⅰ層（表土）0.3 ｍの下に、Ⅱ層（近現代盛土）1.2 ｍ。Ⅱ層の下は地山・岩盤。	なし	なし	
Ｔ②	２×2.5	2.0	Ⅰ層（表土）0.5 ｍの下に、Ⅱ層（近現代盛土）1.5 ｍ以上。地山・岩盤には到達せず。	なし	なし	
Ｔ③	２×2.5	1.5	Ⅰ層（表土）0.3 ｍの下に、Ⅱ層（近現代盛土）1.0 ｍ以上。地山・岩盤には到達せず。	なし	なし	
Ｔ④	２×３	2.0	Ⅰ層（表土）0.2 ｍの下に、Ⅱ層（近現代盛土）1.6 ｍ。Ⅱ層の下は地山・岩盤。	なし	なし	

1. T①断面（北から）

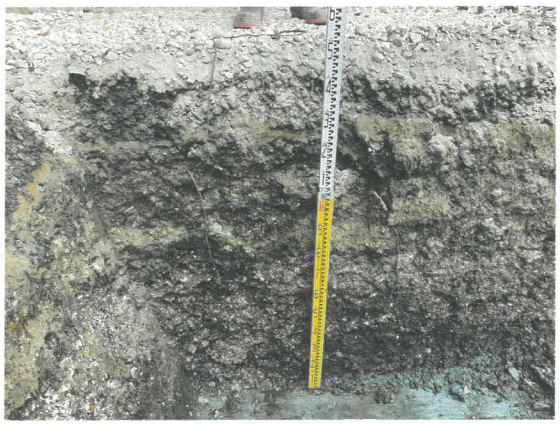
2. T①調査風景（南東から）

3. T②断面（北東から）

4. T②調査風景（南東から）

5. T③断面（南から）

6. T③調査風景（東から）



7. T④断面（南から）

8. T④調査風景（南東から）

写真図版４　各トレンチの調査状況

（3）C区：平和田囲遺跡

1）調査方法と経過

確認調査の対象地は、平和田囲遺跡の北側（海側）に隣接する地点で、海岸の既存護岸に沿った幅5m、長さ約78mの範囲である（**図9・写真図版5－1**）。海沿いの新たな護岸は、既存の護岸より2mほど海側に設置され、陸地側ではコンクリート舗装及び排水路などが設置される計画であり、現陸地面での掘削は最深でも70cmほどである。

今回の確認調査では、既存堤防内側のコンクリート舗装や排水路の設置が計画されている範囲を対象として、幅1.9～2.5m、長さ2.8～3.0mのトレンチを4か所（T1～T4）設定した（**図9**）。調査に際しては、バックホー（0.25㎥）を使用して深さ1.7～2.3mほど掘削を行ったが（**写真6・写真図版5－2～5**）、調査地は既存護岸のすぐ脇のため海水の流入があり、特にT4は湧水が激しく調査が不可になった。また、盛土や砂地のため崩落の危険も高いことから、いずれのトレンチもバックホーによる掘削後には調査区断面の写真を撮影するとともに堆積層の柱状図を作成し（**図10**）、すぐに埋め戻しを行った。

なお、今回、海水の流入で確認調査ができなかった計画地の東側（T4付近）は、工事の際に立会いを行うことにした。

2）調査状況及び結果

各トレンチの堆積状況及び調査結果は、**図10・表4**に示した通りである。表土、近現代の盛土下には、Ⅰc層：暗オリーブ灰色砂・粘土、Ⅱ層：暗褐色砂礫層～黒褐色粘土などの水成堆積層が1.5m以上続く。

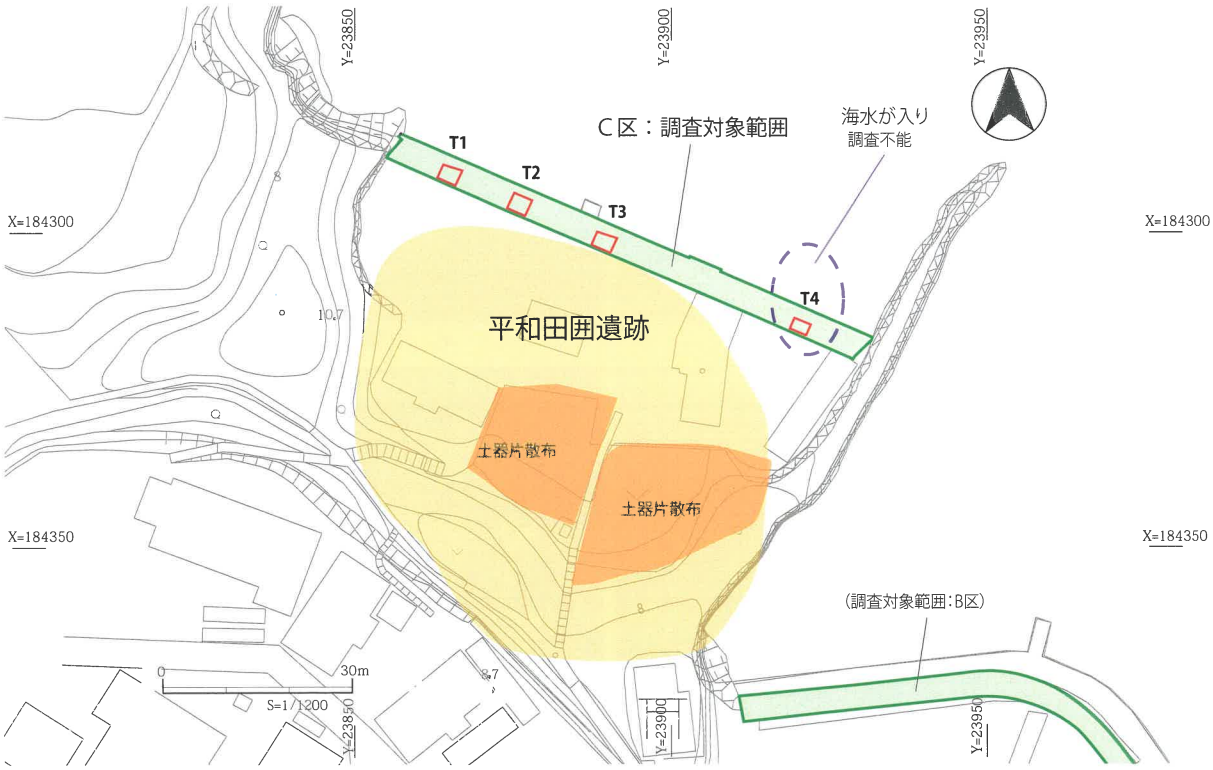


図9　確認調査トレンチの位置

調査の結果、各トレンチとも縄文時代や古代などの遺構・遺物は検出されなかった。

また、海水の流入で調査ができなかったT4は、矢板敷設後の既存排水溝撤去工事に工事立会を行ったが、T1～T3と同じく遺構・遺物は見つからなかった。

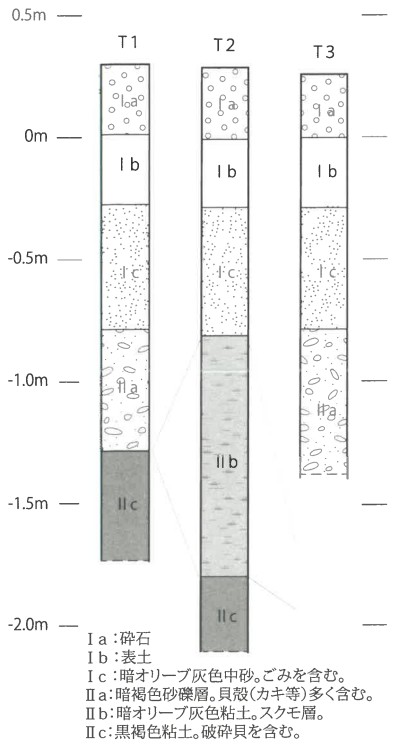


図10　各トレンチの層序柱状図

写真6　調査状況（T3、西側から）

表4　各調査トレンチの概要

トレンチ	調査面積（幅×長m）	調査深度(m)	堆積層の状況	遺構	遺物	備　考
T1	2.5×3	2.0	盛土1.0m下に暗褐色砂礫層、黒褐色粘土層が続く。	なし	なし	
T2	2.5×3	2.4	盛土1.1m下に暗オリーブ灰色粘土（スクモ）層、黒褐色粘土層が続く。	なし	なし	
T3	2.5×3	1.7	盛土1.0m下に暗褐色砂礫層が続く。	なし	なし	
T4	2×2	－	湧水が激しく、調査不可。			工事の際に立会

3）小括

①　堆積層の状況および遺物・遺構が検出されなかった調査結果から、復旧護岸の計画地は縄文・古代には海面下であり、遺跡範囲はこの地点までは及んでいないと考えられる。

1．調査対象地（東側）（西から）

2．T1（東から）

3. TI 南壁（北から）

4．T2（北から）

5. T3 の調査状況（西から）

写真図版 5　各トレンチの調査状況

（4）D区：ごしょぼら貝塚（工事立会）

D区は工事区間の一部がごしょぼら貝塚の遺跡範囲となっている。既存施設を生かした工事が主体で掘削部分が少なく、遺跡への影響は軽微であると考えられることから発掘調査は不要と判断したが、念のため既存防潮堤端部のコンクリートおよび既存排水溝撤去の際に工事立会を行った（写真 7・8）。

端部の水叩きコンクリート撤去後に露出した土層は砕石混じりの土砂で、既存防潮堤を建設した際に厚く盛土をしているものとみられた。既存排水溝撤去部は、底部（深さ約 30 ～ 40cm）までアサリ・カキなどの貝殻や砕石を多く含む盛土で、いずれの地点でも遺物等は見られなかった。

図 11　工事立会地点

写真 7　既存コンクリート撤去部（西端部、東から）

写真 8　既存排水溝撤去部（西から）

第Ⅴ章　まとめ

1. 今回の確認調査は、海岸護岸の復旧工事に伴い、野々島貝塚（縄文・古代）、平和田囲遺跡（古代）およびその隣接地等で実施したものである。野々島貝塚の西端部に近接する地点の調査区（T9～T12）では、表土下 1.1 ～ 1.3 mの細砂層やオリーブ褐色粘土層から、遺跡本体からの流れ込みとみられる古代の土師器・須恵器とともに製塩土器の破片が出土した。遺物が出土したのはこの地点のみで、他の調査区からは遺構・遺物は検出されなかった。
2. 各調査地点とも、現表土下には 0.6 ～ 1.2 m以上の現代の厚い盛土（旧護岸工事によるものか）がなされており、この盛土の下にはアサリ等を含む砂層や粘土層、スクモ層が続いていることから、縄文時代や古代にあってはいずれも海面下であった可能性が高い。

引用・参考文献

塩竈市教育委員会 2010 『桂島貝塚』塩竈市文化財調査報告書第８集

塩竈市教育委員会 2016『浦戸諸島発掘調査報告書Ⅰ－平成 27 年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書－』塩竈市文化財調査報告書第９集

七ヶ浜町教育委員会 1992 『水浜遺跡』 七ヶ浜町文化財調査報告書第８集

東北歴史資料館　1989 『宮城県の貝塚』東北歴史資料館資料集 25

宮城県教育委員会　1986 『塩竈市新浜遺跡』 宮城県文化財調査報告書第 113 集

宮城県教育委員会　1989 「薬ヶ崎貝塚」『亘理町三十三間堂遺跡ほか』pp.219 ～ 228　宮城県文化財調査報告書第 131 集

塩竈市がこれまで刊行した文化財調査報告書

『塩竈市文化財調査報告書第 1 集　塩竈市清水沢横穴群調査報告書』 昭和 50 年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 2 集　塩竈市の文化財』 昭和 54 年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 3 集　杉の入裏窯跡』 平成２年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 4 集　ラッコ船「開盛丸」遺留品』 平成３年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 5 集　母子沢遺跡』 平成 13 年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 6 集　近世塩竈の町並み調査』（『宮城史学』第十九号別冊）

『塩竈市文化財調査報告書第 7 集（多賀城市文化財調査報告書第 79 集）野田遺跡・矢作ヶ館跡』 平成 17 年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 8 集　桂島貝塚』 平成 22 年３月

『塩竈市文化財調査報告書第 9 集　浦戸諸島発掘調査報告書Ⅰ－平成 27 年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書－』 平成 28 年４月

『塩竈市文化財調査報告書第 10 集　塩竈市指定有形文化財（建造物）勝画楼調査報告書』 令和２年３月

報告書抄録

ふりがな	うらとしょとうはっくつちょうさほうこくしょ２ーれいわがんねんど・れいわ２ねんどふっこうじぎょうかんれんいせきはっくつちょうさほうこくしょー
書名	浦戸諸島発掘調査報告書Ⅱ
副書名	ー令和元年度・令和２年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書ー
シリーズ名	塩竈市文化財調査報告書
シリーズ番号	第11集
編著者名	（塩竈市）白谷明彦・（宮城県）佐久間光平
編集機関	塩竈市教育委員会
所在地	〒985-0052　宮城県塩竈市本町１番１号　TEL：022-362-2556　FAX：022-365-3347
発行年月日	2021年1月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 （㎡）	調査原因
ののしま 野々島貝塚	みやぎけんしおがましうらとののしま 宮城県塩竈市浦戸野々島 あざへいわだ 字平和田	042030	11015	38°33′83″	141°10′83″	2019.07.29～2019.07.31 2019.10.07～2019.10.08	確認調査 92	浦戸地区海岸災害復旧事業《東日本大震災復興関連事業》
へいわだかこい 平和田囲遺跡	みやぎけんしおがましうらとののしま 宮城県塩竈市浦戸野々島 あざへいわだ 字平和田	042030	11025	38°33′94″	141°10′62″	2019.10.28～2019.10.29	確認調査 25	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野々島貝塚	貝塚 製塩	縄文早 奈良・平安	なし	土師器、須恵器、製塩土器	丘陵部に近い地点から古代の製塩土器がややまとまって出土したが、堆積層の状況から古代までは海面下であった可能性が高い。
平和田囲遺跡	散布地 製塩	平安	なし	なし	野々島貝塚の海岸線付近と同様、事業予定地は海面下であった可能性が高い。

要約

松島湾の浦戸諸島のほぼ中央に位置する野々島には、縄文早期から古代にかけての貝塚や製塩遺跡が多数分布する。野々島貝塚は縄文時代早期および奈良・平安時代の遺跡であり、丘陵側の畑地では土器や貝殻の散布が見られる。野々島貝塚と小丘陵を挟んだ西側の入り江には、奈良・平安時代の土器散布が見られる平和田囲遺跡がある。

今回の確認調査は、海岸護岸の復旧工事に伴い、野々島貝塚（縄文・古代）、平和田囲遺跡（古代）およびその隣接地等で実施したものである。野々島貝塚の西端部に近接する地点の調査区（T9～T12）では、表土下1.1～1.3ｍの細砂層やオリーブ褐色粘土層から、遺跡本体からの流れ込みとみられる古代の土師器・須恵器とともに製塩土器の破片が出土した。遺物が出土したのはこの地点のみで、他の調査区からは遺構・遺物は検出されなかった。

各調査地点とも、現表土下には0.6～1.2ｍ以上の現代の厚い盛土（旧護岸工事によるものか）がなされており、この盛土の下にはアサリ等を含む砂層や粘土層、スクモ層が続いていることから、縄文時代や古代にあってはいずれも海面下であった可能性が高い。

塩竈市文化財調査報告書第 11 集

浦戸諸島発掘調査報告書Ⅱ

－令和元年度・2 年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書－

令和 3 年 1 月 20 日　印刷
令和 3 年 1 月 29 日　発行

発行　塩竈市教育委員会
宮城県塩竈市本町 1 番 1 号　壱番館 3 階
TEL：022-362-2556 ／ FAX：022-365-3347

印刷　株式会社 工陽社